

発行・幸田町役場 愛知県額田郡幸田町大字菱池字元林1番地1
 編集・企画課 ☎62-1111 (份)2458 印刷・あいち印刷

整備が進む教育施設



幸田中学校武道館完成予想図

幸田町民憲章

わたくしたちは、心豊かな住みよ
 いまちづくりをめざし、ここに町民憲
 章を定めます。

- 一、緑豊かに、水清らかに、みんな
 美しいまちをつくりましょう。
- 一、ありがとう、いつも笑顔で親切の
 輪を広げましょう。
- 一、活気と希望と夢にみちた、若い力
 を育てましょう。
- 一、スポーツに親しみ、心身を鍛え、
 健康なまちをつくりましょう。
- 一、豊かな知識と教養を高め、文化の
 向上に努めましょう。

施政方針

第3次総合計画のもと緑のなかの 豊かな活力あるまちづくりをめざして 2P~3P
61年度予算のあらまし	
農工商の調和した活力あるまちを めざして 4P~5P
7つの重点施策	
1. 新しい計画的なまちづくり~ 6P~8P
7. 広域行政の推進	

施政方針

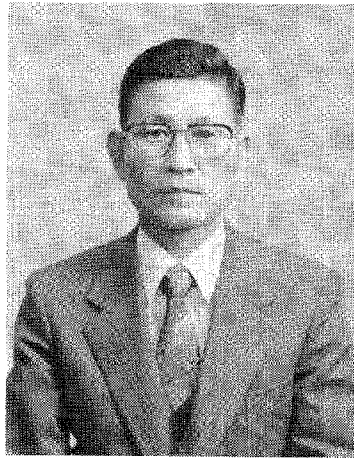
第3次総合計画のもと

緑のなかの豊かな活力ある

まちづくりをめざして

3月定例町議会において、昭和61年度の施政方針と予算概要が、磯部町長から示されました。

この中で、「人と自然と産業の調和」を基本理念とした「緑のなかの豊かな活力あるまちづくり」のため、7つの重点施策を進め、来たる21世紀に向けての基礎づくりに努力することが述べられました。なお、その概要は次のとおりです。



幸田町長 磯部光雄

昭和61年度の施政方針と予算の概要について申し上げます。

第3次総合計画の初年度となる昭和61年度は、「人と自然と産業」の調和を基本理念として、緑のなかの豊かな活力ある文化都市をめざし、町民の総意を結集し、豊かで和やかな住みよいふるさと幸田の一層の発展をめざす出発の年にと念願しています。

さて、昭和60年度は、災害や大きな事故もなく、合併30周年を記念し建設を進めていました。役場新庁舎が竣工し、坂崎、豊坂小学校の体育館、海谷公民館も完成しました。また、坂崎、大草地区に加え、野場菱池第1工区の県営圃場整備、深溝緑農

住区土地基盤整備事業も着工さ

れ、幸田駅西、仲田地区の区画整理なども順調に進んでいます。更に今後の幸田町の財政基盤と、活力あるまちづくりに大きく貢献することが期待される中部工業団地の造成工事も近く完成の運びで、一層の発展に向けて町づくりが推進できましたことは、町民の皆様のご理解ご協力の賜と感謝申し上げます。

昭和61年度予算編成の

基本的な考え

わが国経済は、世界景気の緩やかな拡大、物価の安定、技術革新の進展などを背景にして、個人消費や設備投資が順調に推移し、全体としては、緩やかな拡大

を続けてきました。

しかしながら、最近の急速な円高による影響など貿易環境の厳しさから輸出が伸び悩みの傾向にあり、景気動向にはらつきが見えはじめており、先行きは楽観できない状況にあります。

本県西三河地方の経済も、主力の自動車、工作機械がなお好調を持続しているものの、一部の業種にかげりが出てきており、さらに、円高の進行が輸出依存度の高いこの地域の産業に次第に影響を及ぼしてくることが懸念され、総体的には厳しい状況を辿るものと思われれます。このような経済環境から本町歳入の約60%を占める町税収入に大幅な伸びを期待することは困難で



21世紀を担う子供たちのために

す。
さらに、昭和60年度から実施された国による国庫補助負担金の削減などの措置は、61年度においても拡大強化をされ、本町財政に大きな影響を及ぼしております。

一方、歳出面では、公債費の増加、老人保健を始めとする扶助費など義務的経費、更に庁舎等公共施設管理費の増加も著しく、また土地基盤、公共施設等社会資本充実などの財政需要のため、本町財政は一段と厳しい環境にあります。このため、限られた財源の重点的かつ効率的な配分に努め、幸田町行財政改革推進大綱を踏まえながら、新しい社会経済情勢に即応した各種の施策を積極的に推進することとし、昭和61年度予算を年間総合予算として編成しました。
過疎、人口の流出をいかに抑制するかに悩む町村もあるなかで、幸い幸田町の人口は今28、390人を超え、毎年概ね500〜600人の人口が増加しております。また、今日の高度化された社会にあつては、物的な豊かさとともに心の豊かさが求められています。それゆえに新旧の住民がより心のふれあいを高めながら、よき風習、伝統を發展させ、お互いに今日忘れが

ちな人間本来の助け合い、いたわり合いを日常生活に生かし、健康で明るい家庭と地域づくりを進め、「人と自然と産業」即ち農工商調和のとれた活力に満ちたまちづくりを推進するために昭和61年度予算を編成しました。

**行財政の効率的運営に努め
7つの重点施策を推進**

現在の成熟した時代は、長年の努力の蓄積を今後いかに維持し、更に發展させ、ひたひたと迫り来る高齢化社会にいかに対処していくか、また、高度に発達した情報化社会への取り組み、自然環境や心の豊かさも求められていくことが、行政に課されている時代であると思えます。

これらの社会情勢に対応した町政を進めるため、行財政改革大綱に基づき、経費の節減、合理化、行財政運営の効率化に努力しつつ、町政の当面する重点目標を次の7点に置き、第3次総合計画により、積極的にその推進を図る所存です。

- 1 新しい計画的なまちづくり
- 2 人間性豊かな住みよいまちづくり
- 3 健やかなまちづくり
- 4 心の通った福祉行政の推進
- 5 緑を大切に安全で災害に強

- 6 いまちづくり
- 7 豊かで活力あるまちづくり
- 8 広域行政の推進

**対話を深め
心のふれ合う町政を**

壮年期を迎えたわが幸田町は、やらなければならぬ大型事業が山積しており、圃場整備、区画整理なども緒に付いたという状況です。新庁舎を拠点に行政サービスの一層の向上と充実を図り、第3次総合計画を指針に、着実に行政を進めていく必要があります。

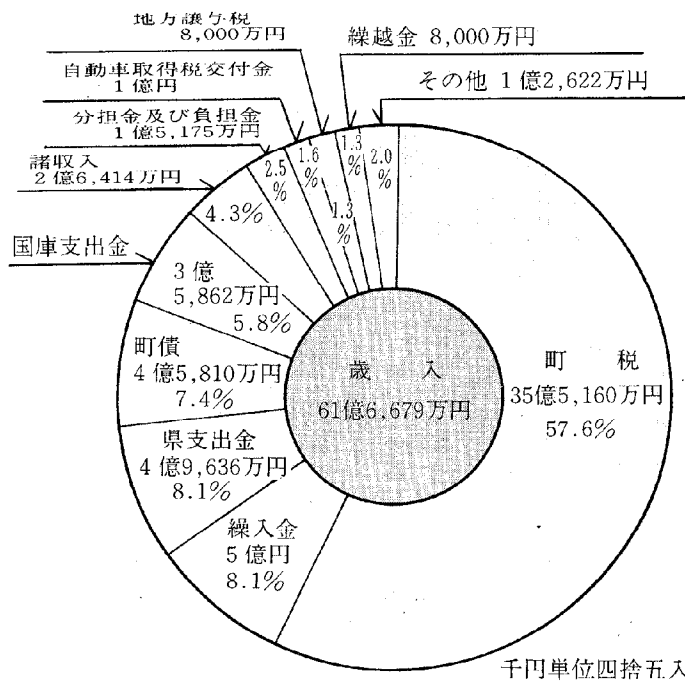
今後、議会の皆様と意見調整を進め、また町民の皆様との対話を深め、各種事業を計画実行していく所存です。心の通った温い行政を職員とともに心掛け、私を始めとして全職員の綱紀を正し、公務員としての倫理にもとるようなことのないよう、自省自戒しながら、職員の英知を集め、全力を挙げて「豊かで活力ある住みよいまちづくり」の建設に邁進する所存です。どうか議会並びに町民の皆様の一層のご支援ご協力を心からお願いたします。

豊かな をめざして

6,679万円

3月に開催された定例町議会にて、昭和61年度の幸田町の予算が決まりました。今年度は、第3次総合計画によるまちづくりの初年度です。この予算に基づいて、緑のなかの豊かな活力ある文化都市の建設を進めます。ここで、この新年度予算のあらましを紹介いたします。

一般会計歳入



会計別予算額

会計別	本年度予算 (万円)	対前年度伸率 (%)
一般会計	616,679	△ 12.3
特別会計	土地取得会計	17,738 △ 86.7
	国民健康保険会計	83,613 9.0
	老人保健会計	67,236 9.8
	農業共済会計	10,511 6.6
水道事業会計	収益的	38,548 13.1
	資本的	29,615 △ 31.9
合計	863,940	△ 18.6

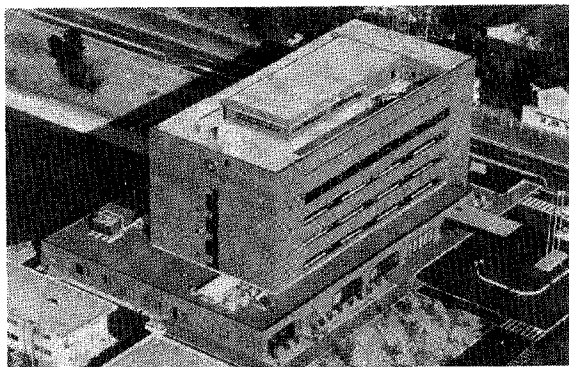
予算の概要

予算規模は、一般会計61億6,679万円、前年度に比べ、12.3%の減ですが、前年度は庁舎用地を含め、12億1,641万円の買戻し(会計間の出し入れ)があり、これを差引きますと実質6.1%増となっております。特別会計では、土地取得特

別会計が1億7,738万円、国民健康保険特別会計は、医療費の増加に伴い8億3,613万円、前年度比9.0%の増となるため、特に本年度は一般会計から前年の倍額の6,000万円の繰入れをしました。また、老人保健特別会計は6億7,236万円(繰入金3,387万円)で前年度比9.8%の伸びです。農業共済事業特

別会計は、1億5,111万円の6.6%増、水道事業特別会計は昨年、中部工業団地関連工事などが一部完了したため、6億8,163万円で12.1%の減となっておりますが、本年度も、中部工業団地関連でPCタンク1億7,000万円と蒲郡市との緊急連絡管7,500万円などを予定しています。

これら一般会計と特別会計と合わせると、総額86億3,940万円で、前年度の106億1,573万円と比較して18.6%の減となりましたが、会計間の重複部分を除くと、実質的には6.1%の増となっております。



緑のなかの 活力あるまち

61年度
一般会計予算 **61億**

一般会計歳入

町税は昨年に引きつづき、法人町民税や固定資産税の伸びを見込み、35億5、160万円、前年度比19・9%の増額を計上しました。

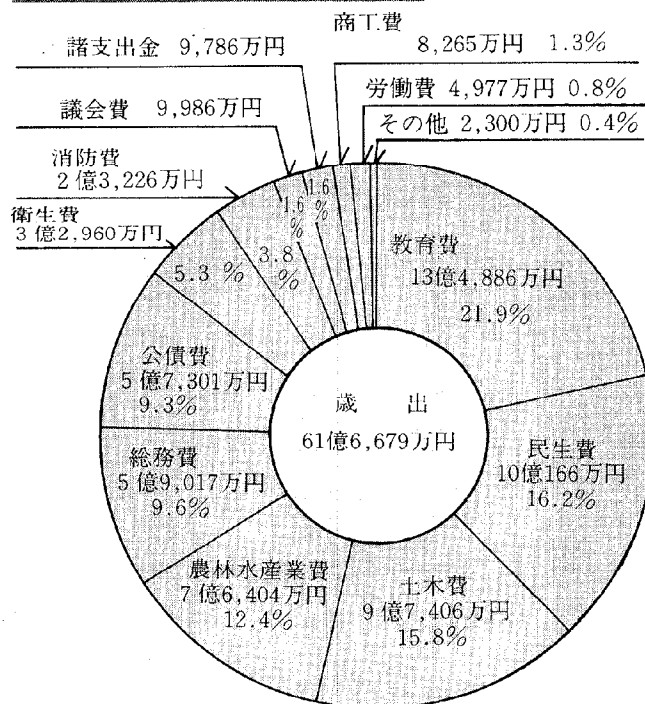
国県支出金は、多くの補助事業採択が予定され、8億5、498万円、前年度比12・5%増、また、町債については前年度比23・9%増の4億5、810万円、基金からの繰入金5億円と合わせ、主要建設事業の財源に充てることとしました。

一般会計歳入

一般会計歳出

61年度は、679万円の内、義務的経費である人件費、扶助費、公債費は19億7、127万円、総額の32%、投資的経費は25億3、073万円、物件費は6億8、996万円の11・2%、補助費等は5億9、369万円の9・6%となっており、対前年度比伸率は、それぞれ下記内訳表のとおりです。

一般会計歳出



一般会計性質別歳出内訳

区分	本年度予算額 (万円)	構成比 (%)	対前年度伸率 (%)	区分	本年度予算額 (万円)	構成比 (%)	対前年度伸率 (%)
人件費	126,728	20.6	7.7	積立金	1,300	0.2	116.7
物件費	68,996	11.2	32.8	公債費	57,301	9.3	10.4
維持補修費	10,732	1.7	45.4	繰出金	18,173	3.0	21.9
扶助費	13,099	2.1	24.3	普通建設事業	252,773	41.0	△ 34.1
補助費等	59,368	9.6	5.8	災害復旧費	300	0.0	0.0
投資及び出資	8	0.0	△ 75.4	予備費	2,000	0.3	0.0
貸付金	5,901	1.0	0.0	歳出合計	616,679	100.0	△ 12.3

重点施策

2. 人間性豊かな 住みよいまちづくり

- 義務教育施設の整備
- 社会教育コミュニティ活動の推進



幸田中学校武道館、幸田小学校体育館及び中央小学校クラブハウスを増改築し、次の世代が恵れた環境と施設のもとで勉学と体力の向上に励めるように、教育施設の整備を積極的に進めます。また、これらの施設は学区民のスポーツによる体力づくりと、集合コミュニティの場としての活用を期待するものです。特に懸案の仮称北部中学校については地主を始め地元関係者のご理解とご尽力により協力が得られる見通しですので、用地の先行取得を行う予定です。

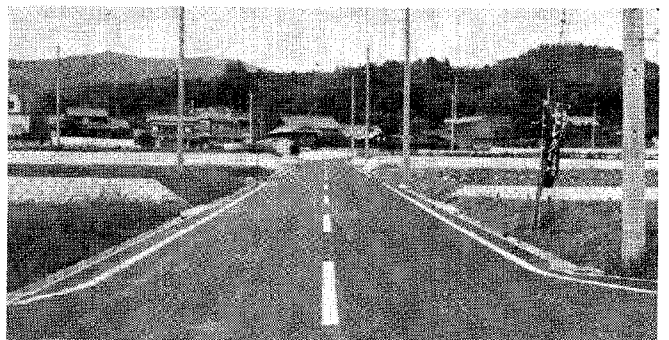
また公民館活動については、その中心である中央公民館の改装を

行い、幸田公園の文化広場と併せて文化、研修、ふれあいの拠点として活用をお願いします。なお、文化財については先人が残してくれた貴重な遺産であり、後世に継承すべく青塚、深溝城跡の保存、東光寺調査のため予算措置をいたしました。1、700名の会員を擁する幸田文化協会も昨年創立10周年を経過し、文化的なまちづくりに果たす役割は大となっています。今後、一層の発展充実が望まれ本年は白主的活動と、その体制づくりを期待し助成を強化しました。

現在町民から最も熱望されている町民会館（文化会館）は、でき

1. 新しい計画的な まちづくり

- 市街地整備
- 南部下水道推進
- 町営住宅の改築



計画的なまちづくりには、適正な制限と土地利用の合理性、加えて社会ニーズに対応した都市施設を効率的に配置することが必要です。本年の土地区画整理事業は、幸田駅西・芦谷仲田地区の継続実施と併せ、大草山添地区の計画樹立と幸田駅前地区の区画整理と再開発事業の計画樹立に努力する所存です。更に機能的な都市交通のために、街路及び、市街化区域内調整区域内生活道路の整備を積極的に進めます。次に本年から新たに、公共下水道事業幸田南部処理地区下水道工事に着手する予定です。また、都市下水路工事は観音下水路をはじめ継続3路線、排水

路新規7路線の事業実施を予定しています。計画的な行政の象徴ともいえるこれら都市計画事業に根気強く取り組んで、住みよい新しいまちづくりを進めていきたいと思えます。

また、本年は、深溝の町営住宅が老朽著しく、耐用年数もすでに過ぎていきますので、沢渡地区に、建設をします。

これら市街地の整備を進めるのには、何よりも体制と担当する職員、の資質が大切ですので、県職員1名の派遣を始めとして、職員体制の充実整備に努めます。

主な事業予算

土地区画整理事業助成金他	4,015万円
野場横落線・生平幸田線他市街化区域内生活道路整備	1億1,452万円
一般町道整備	2億8,435万円
幸田南部処理区公共下水道整備	2,200万円
下水路整備	8,248万円
深溝町営住宅建設	1億3,230万円

主な事業予算

幸田中学校武道館建設	1億7,823万円
幸田小学校体育館建設	3億364万円
中央小学校クラブハウス建設	6,731万円
青塚、深溝城跡保存、東光寺調査	696万円

る限り早期に建設をするため、今から調査、研究を各方面のご意見を承りながら進めたいと思います。

7 つ の

4. 心の通った 福祉行政の推進

- 老人・母子・障害者・児童福祉の充実
- 豊坂保育園の改築



わが国の平均寿命は世界第1位となりましたが、本町も早い速度で高齢化が進むものと思われ、恵まれた現在が存在するのは、国、また町の発展のため努力を積み重ねてこられた先輩たちのお陰であり、これら先輩たちが、生きがいある生活をおくり、引き続き社会に貢献していただくため、老人福祉センターを中心とした健康管理、陶芸、園芸などの趣味の講座、実益も伴う高齢者能力活用推進事業の一層の充実を図ります。本年は新たにねたきり老人看護家政婦派遣事業、敬老行事の充実、託老所などの調査費に意を注ぎました。ま

た、身障者の扶助、授産所を拠点とする活動推進のための諸施策、母子、寡婦の方々のための施策などをきめ細かに盛り込み、谷間のない福祉行政を進めます。一方、児童福祉については、働くお母さんがますます増える中で乳児保育、延長保育を引き続き実施します。更に保育行政の充実を進めるため豊坂保育園の改築を行い広い運動場と充実した施設、そして隣接する水晶山の自然を活用したのびのびとした情緒豊かな保育を実施したいと思えます。保育料については、国の基準、近隣団体との均衡を考慮し、2人以上入所

老人福祉対策	7、994万円
身体障害者福祉、母子福祉対策	1億7、123万円
豊坂保育園改築	2億6、977万円
住民、ちびっ子広場整備その他児童福祉	4億6、207万円

主な事業予算

3. 健やかなまちづくり

- 中部運動場他スポーツ施設の整備
- 予防医療の充実・環境衛生推進



高齢者の人々が健康で生きがいのある生活をされるため、ゲートボール場などの整備充実と、生きがい農園や薬草の栽培などの奨励にも力を入れていきたいと思えます。コミュニティ活動の充実とともに、スポーツ人口は着実に増大し、家庭から地域へとその輪が広がっています。このため本年度は、荻谷地区に仮称中部運動場の造成を進める考えです。総合運動公園については、計画推進費を予算化しました。また、町の主催する各種スポーツ行事を更に盛り上げ、健康な身体と精神づくりの行政を推進します。

次に住民の健康を守るために、高齢者の人々が健康で生きがいのある生活をされるため、ゲートボール場などの整備充実と、生きがい農園や薬草の栽培などの奨励にも力を入れていきたいと思えます。コミュニティ活動の充実とともに、スポーツ人口は着実に増大し、家庭から地域へとその輪が広がっています。このため本年度は、荻谷地区に仮称中部運動場の造成を進める考えです。総合運動公園については、計画推進費を予算化しました。また、町の主催する各種スポーツ行事を更に盛り上げ、健康な身体と精神づくりの行政を推進します。

仮称中部運動場整備	1億5、000万円
予防医療対策	4、671万円
母子健康管理診断	597万円
国民健康保険会計への財政援助	6、000万円
老人保健会計への財政援助	3、387万円
環境衛生公害対策	430万円
し尿処理場清幸園の改築	1億2、784万円

主な事業予算

水事業はその成果を見ながら他地区の取り組みを進めたいと思えます。

7つの重点施策

6. 豊かで活力あるまちづくり

- 農業基盤整備 ● 産業振興
- 企業団地の造成

産業振興に当っては、農協、商工会、土地改良区、企業集団などと一体となって推進を図っていききたいと思ひます。

本町の立地条件から農業の使命は、これからも非常に重要となります。生産性向上のため、土地基盤整備事業を進め坂崎大草地区13・0 ha、他4地区で圃場整備を実施します。また、農地造成としては矢作南部地区3・0 ha、県営一般農道整備事業は、継続の須六、須六第2、長嶺線、幸田南部の4地区で、2年目を迎えた農村集落排水事業は処理場を建設します。農村総合整備モデル事業については集落道5路線を主に、農村地域に

おける環境基盤の整備を進めま

国営矢作川総合農業水利事業も昭和62年には完了しました。農水の有効利用と農業の近代化を今こそ進めなければなりません。農業情勢は極めて厳しいものがありますが、特産物である筆柿などの果樹、いちご、なすなどの栽培面積を拡大し、一層これらの生産を振興することにより、農地の利用率と生産意欲の向上を図ります。特に新農業改善事業による近代化施設整備、(西深溝ナス団地、逆川施設園芸組合機械導入、大草いちごハウス団地)を進め、また、水稻の共同育苗施設を導入し、水

主な事業予算

土地基盤整備事業(5地区)	5億1,903万円
農地造成事業(矢作南部)	1億2,000万円
農道整備事業(4地区)	1億3,780万円
農村集落排水事業	8,600万円
農村総合整備モデル事業(集落道5路線他)	1億2,900万円
農業振興費	1億2,270万円
林道整備	3,200万円
松くい虫防除	2,500万円
商工業振興資金預託	3,300万円
幸田駅前駐車場整備	1,766万円
荻不動ヶ滝休憩所整備	515万円

5. 緑を大切に安全で災害に強いまちづくり

- 緑化推進 ● 交通安全対策
- 防災施設整備 ● 消防施設整備

総合計画の基調は「人と自然と産業の調和」です。人と自然との調和は古今揺るぎない願望であり、今後とも開発が進む中において堅持していかなければなりません。特に本年度は片谷桜保存会の方々のご協力を得、桜の里づくりに努めたいと思ひます。また、市街地の緑地確保にも心がけ、山に緑を、川に清流を取りもどす河川の美化浚渫に一層努力します。なお、本年から坂崎の柳川においては、県営圃場整備事業と関連し、住宅関連都市河川治水緑地事業が県

は、昨年の事故犯罪の発生件数増加を反省材料にみなさんと一体となって減少に向けて対処していきます。

農地費関係では、湛水防除事業、老朽ため池整備事業などを進め、用排水路の整備により一層災害に強いまちづくりを進めます。

なお、災害、火災から町民の生命と財産を守るため、消防力の充実と地域防災組織の一層の整備を推進します。

一方、交通安全防犯について

主な事業予算

緑化推進事業	400万円
造林事業	334万円
山添川改修工事	2,130万円
湛水防除事業	4,453万円
老朽ため池整備事業(3地区)	6,800万円
緊急農地防災事業(2地区)	9,550万円
小型ポンプ車、救急車、消防車更新	2,693万円

7. 広域行政の推進

自治体の使命は文字通り「自治」ですが、それぞれの1市1町では解決できない大きな問題事業があります。特に、広田川改修と治水対策、国営矢作川総合農業水利事業、矢作川流域公共下水道、衣浦蒲郡線、名豊道路などで、これらの事業の関係する市町と信頼と相互調整を重ねて強力に推進をしていきます。

また、懸案の錦田ガード改良工事の早期完成と、248号線を始めとする国県道、河川などについても、関係者、議会と一体となつて、根気よく整備促進に邁進する所存です。